

生きもの調査レポート

2023年6月25日 場所：神奈川県愛川町JONA田んぼ 天気：晴れ 気温29度

JONA田植え1週間後（畦草刈り）		
動物調査	出現種数	種名
鳥	3種	トビ、ハクセキレイ、セッカ（鳴声）
は虫類	1種	ヤマカガシ（草刈りで死亡）
両生類	1種	アマガエル
貝類	—	
チョウ類	1種	ベニシジミ
甲虫	—	
トンボ	1種	ホソミイトトンボ
バッタ類	2種 1種 種	バッタ：ハラヒシバッタ、トゲヒシバッタ コオロギ：コオロギ類y キリギリス：
カメムシ	2種	コオイムシ、ヒメアメンボ
クモ	2種	徘徊：キクヅキコモリグモ、イモコモリグモ 造網：
動物14種 確認 ※y = 幼虫 ▲ = 外来種		
目立った生きもの：（全体的に少なかった）		

畦草調査	出現種数	種名
在来種	29種	畦周り：チドメグサ、カキドオシ、コヒルガオ、イヌガラシ、メヒシバ、オオジシバリ、ハコベ、カラムシ、セリ、オオバコ、イヌタデ、チヂミザサ、ドクダミ、ジャノヒゲ、イノコヅチ、アオカモジグサ、カモジグサ、カタバミ、イヌホオズキ、ヨモギ、ノグシ、ヘクソカズラ、ヨメナ、ヤブカンゾウ、ギシギシ、トキワハゼ、キリンソウ、ツユクサ、センニンソウ
外来種	6種	セイヨウタンポポ、ハルジオン、ムラサキカタバミ、ヒメムカシヨモギ、カモガヤ、オオイヌノフグリ
植物35種確認 ※畦草の外来種率17.14%		
*17世紀（江戸時代）以降は外来種に入れてあります。		
目立った草花：（チドメグサ優占で天然在来の草マルチ！）		

田植え後のJONA愛川田んぼ 解説

■**畦の状態**：「適当な草刈りをしていたら、自然と高刈りになっていたと」のこと。在来のチドメグサによるマルチが効いて、イネ科の植物が目立たなくなってきました！草の種類も法面では特に多かったです。反面小動物があまり見られず、考えられる影響を下記に書きました。

■**転作**：生きもの目線で見ると転作は、水辺環境が失われるため、特に両生類、水生昆虫、魚類、貝類は減少します。

■**波板**：水漏れ防止の便利なものです。反面、小動物たちには畦と田んぼの間の高い壁になり、往来の阻害か、隠れ家がない状態になります。

■**コンクリ畦**：石垣に比べ景観が単調になります。隙間が無いと、トカゲやゴミムシなど益虫の棲家の役割はなくなります。



下の田んぼだけが藻マルチ状態だった



コンクリート畦は幅が狭く効率的で草が無い



高刈りの畦畔 幅も太く草の種類も多い



法面と排水の畦畔の約2m四方に30種の草！



ベニシジミ



2年振りに出現のホソミイトンボ



アマガエル



草刈機で死亡したヤマカガシ



コオイムシ



適度な高刈りでチドメグサがグランドカバーに！